

御陵の風

令和2年2月発行 学校便り



文責:校長 藤井浩彦

◆小学校への挨拶運動

2月6日(木)7時40分から30分間、生徒会役員10名が御笠の森小学校に朝の挨拶運動に行きました。昨年12月、御笠の森小学校の児童会役員の方が、中学生の素晴らしい挨拶を学びたい!と御陵中学校の挨拶運動の見学に来てくれました。そのお礼に…というわけではないのですが、今回は御笠の森小学校出身の生徒会役員が、母校への恩返しと小学生に中学生の頑張りや挨拶を全校児童に見てほしいと企画しました。今回の挨拶運動では、たくさんの小学生も一緒に活動してくれて、素敵な朝の時間になったようです。



【御笠の森小での挨拶運動の様子】

挨拶運動が終わってから、小学校の河上教頭先生に電話をすると「中学生が来てくれて本当によかったです。

きちんとした素晴らしい挨拶を中学生がしてくれるので、小学生にとっていい刺激になりました。児童会役員も挨拶運動に参加していたのですが、途中から中学生と一緒に挨拶運動をしたいという他の児童もたくさん参加して、和やかで清々しい朝を迎えることができました。本当に素晴らしい生徒さん達ですね!とお褒めの言葉をいただきました。素敵な挨拶は、人を笑顔にしたり元気にしたりします。今回、挨拶運動に参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました!

ところで、「挨拶」の語源を皆さんは知っていますか?以前もいくつかの言葉を紹介しましたが、「挨拶」という言葉はもともと禅語「一挨拶(いちあいいちさつ)」からきているそうです。「一挨拶」とは、相手に言葉を投げかけ、その反応で相手がどの程度の悟りの深さであるのか確かめるという意味で使われていました。

「挨拶」は「押す(心を開く)」、「搦(心を近づく)」という意味があるので、『自分の心を開いて、相手の心に近づいていく。』ということになるのかもしれませんが、したがって、挨拶する側は心を開き、された側も心を開く。お互いが心を開いて近づいていき、人間関係を築いていく第一歩にしていくものが挨拶なのだと思います。現在では、「挨拶とは、尊敬や親愛の気持ちを表す動作、言葉、文面などを意味する」とも書かれています。

「挨拶」で人生が変わった人もいます。ある演出家の「芸人として才能がないから辞めさせよう」という指摘で、一人の青年が浅草の劇場から追い出されそうになったとき、「彼のあいさつは素晴らしい。辞めさせないで!」と青年を擁護する(かばい守る)声が上がります。辞めずに済んだとのこと。その青年こそが後のコメディ界のスーパースター、萩本欽一さんだったそうです。

「挨拶は、人と人を繋ぐ架け橋」「コミュニケーションの第一歩」とかいろいろ言われますが、相手の目を見て、笑顔で気持ちを込めて、さわやかな挨拶が自然にできるようになっておくことは、よりよい人生を生きていくときにも、とても大切なことだとわかります。挨拶は習慣です。繰り返し繰り返し、そして自分から進んで挨拶をしたいものです。

【2月・3月の主な行事予定】

月	日	曜	行事	月	日	曜	行事
2	13	木	期末考査	3	6	金	2年生進路説明会
	14	金	期末考査		10	火	公立高校入試
	18	火	学校運営協議会		11	水	個性重視の特別試験
	20	木	2年生高校体験		12	木	3年生修了式・同窓会入会式
	26	水	家庭教育学級閉講式		13	金	第37回卒業証書授与式
	27	木	2年生職場体験		17	火	生徒総会
	28	金	2年生職場体験		24	火	1・2年生 修了式



『非認知能力』

学校の詩 ⑨

「学力の経済学」という本があります。その中に書かれているお話の一部を要約して紹介します。

まず、今回のタイトル「非認知能力」ですが、これは「認知能力」といつも並べて紹介されます。「認知能力」とは、学力テストで計測される能力(IQで表すこともあります)のことです。一方、「非認知能力」とは、「忍耐力がある」とか「意欲的である」というような人間の気質や性格的特徴のようなもののことです。様々なところでこの「非認知能力」の重要性が叫ばれています。「学力の経済学」の中には、人生を成功に導く上で特に重要だと考えられているのが「自制心(自分の感情をコントロールする力)」と「やり抜く力」と書かれています。

まず、「自制心」についてです。コロンビア大学心理学者ミシェル教授の「マシュマロ実験」の話を知っている方も多いのではないのでしょうか?「マシュマロ実験」は、まず、マシュマロを差し出します。次に「いつ食べてもいいけど、大人が戻ってくるまで我慢できれば2つ食べられますよ」とだけ伝えて(いつ戻ってくるかは伝えない)大人は部屋を出ます。そして、15分後、大人が部屋へ戻ってきます。186人のうちの約3分の1の子どもは、15分間我慢して2つのマシュマロを手に入れることができましたが、約3分の2の子どもは我慢できずにマシュマロを食べてしまいました。その後、ミシェル教授は、彼らの人生を追跡して調査を行いました。

その結果、彼らが高校生になるとかなりの差が出てきたと報告しています。SAT(アメリカの大学進学希望者の高校生を対象とした共通試験)の結果は、マシュマロを2つ手に入れた子ども達の方が、我慢できずにマシュマロを食べた子ども達の成績よりはるかに高かったそうです。

次に「やり抜く力」です。この能力は、ペンシルバニア大学の心理学者であるダックワース准教授が「成功を予測できる性質」として発表して以来注目を集め、GRIT(グリット)とも呼ばれています。ダックワース准教授は、このやり抜く力を「非常に遠い先にあるゴールに向けて、興味を失わず、努力し続けることができる気質」と定義しています。この「やり抜く力」を12問ほどの質問に答えてもらい数値化しました。陸軍士官学校の訓練に耐え抜くことができる候補生は誰か?英単語の全国スプリングコンテストで最終ラウンドまで残る子どもは誰か?貧困地域に配属された新米教師のうち学年末に最も子どもの学力を上げることができるのは誰か?それぞれまったく異なる状況で、求められる能力はバラバラのようですが、ダックワース准教授は、「成功する人」を事前にかなり高い精度で予測することができました。「やり抜く力」が高い人は、いずれの状況でも成功する確率が高かったからだと言っています。

さらに最近の研究では、「非認知能力」の多くが成人後も鍛えれば伸びると言われています。では、どうやって鍛えるのか?「自制心」は、筋肉のように鍛えるとよいそうです。すなわち、継続と反復です。何かを繰り返し行うことで向上します。例えば、「背筋を伸ばせ!」と言われた学生がそれを忠実に守り、成績が向上したという報告もあるようです。背筋を伸ばしたことが直接成績を上げたわけではないでしょうが、「意識しないとできないことを継続して行った」ことで学生の自制心が鍛えられ、成績向上につながったのではないかと考えられています。また、「細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する」ことも自制心を鍛えるのに有効であると多数の研究で報告されているそうです。もう一つの重要な非認知能力「やり抜く力」を伸ばすために、スタンフォード大学の心理学者ドゥエック教授は、「この力を伸ばすには、“心の持ちよう”が大切である」と主張しています。教授らは、「しなやかな心を持つこと」すなわち、「自分のもともと能力は生まれつきのもではなく、努力によって後天的に伸ばすことができる」と信じる子どもは「やり抜く力」が強いことがわかっているそうです。そのため、親や教師などから定期的にそのようなメッセージを伝えられた子どもは「しなやかな心」を手に入れ、「やり抜く力」が強くなり、成績も向上するというのです。

「自制心」と「やり抜く力」…様々な分野で活躍する(した)人を思い出してみてください。ほとんどの方がこの2つを持ち合わせているように思いませんか?予測困難な未来を、たくましく生きていく子ども達を育てるために、私たち大人がこの2つの力を始めとする「非認知能力」を意識し、子ども達と接していくことはとても重要だと思います。そして御陵中の子ども達も、目先の成績だけではなく、目には見えないもの・こと・心を大切にしてほしいと願っています。

◆ある朝、ある生徒と「おはようございます!」の挨拶を交わすと、その生徒が「あ、先生…うちのお母さん、先生の学校便りのコラム、いつもとても楽しみにしてますよ!」と声をかけてくれました。私は毎月、何の話題にしようかと悩みながら、少しでも保護者の方や生徒(先生方にも)に伝わるといいなと思い作っています。その生徒の言葉に、朝からとてもうれしく「また頑張らないと!」と思う私でした。いつも読んでいただいている皆様、本当にありがとうございます!【校長:藤井浩彦】